

マアジの新規加入量調査

(水産資源調査・評価推進委託事業 (我が国周辺水産資源))

森脇和也

1. 目的

本県のまき網漁業や定置漁業の主要漁獲対象種であるマアジの新規加入状況を早期に把握するため、日本海南西海域におけるマアジ幼魚の分布状況を推定するとともに同海域への新規加入量の推定を行う。また、得られたデータはマアジ対馬暖流系群の資源評価における新規加入量の指標値とする。

2. 方法

本研究では、(国研)水産研究・教育機構 水産資源研究所、鳥取県水産試験場および山口県水産研究センターと共同で、2024 (令和 6) 年 5 月～6 月にかけて、中層トロール網による一斉調査を実施し、その結果を基にマアジの新規加入量の推定を行った。

本県の調査 (1 回目: 5 月 14 日～15 日、2 回目: 6 月 3 日～6 日) は試験船「島根丸」により、島根県西部沖の 14 点で実施した (1 回目は 3 点欠測) (図 1)。曳網水深は 30～50 m とし、曳網速度は 3 ノット、曳網時間は 30 分間とした。調査から得られた結果について関係機関と共同で解析し、マ

アジの加入量指数を算出した。

3. 結果

マアジ幼魚の 1 調査当たり採集尾数は、1 回目が 1,657 尾、2 回目が 2,507 尾であった。

図 2 に 2003 (平成 15) 年の調査結果を基準としたマアジ加入量指数の推移を示した。一斉調査の結果から算出した 2024 年の加入量指数 (2003 年を 1 とする) は 1.07 であり、前年 (2023 年 (令和 5 年): 0.70) を上回った (図 2)。

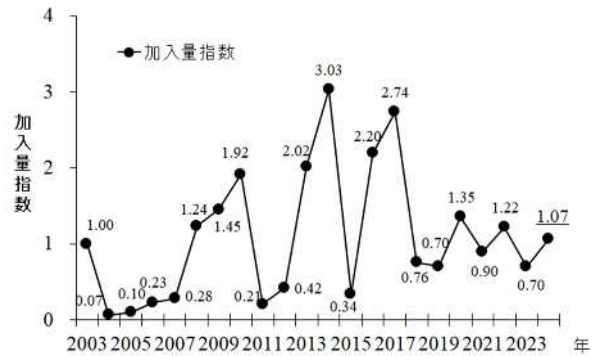


図 2 マアジ加入量指数の推移

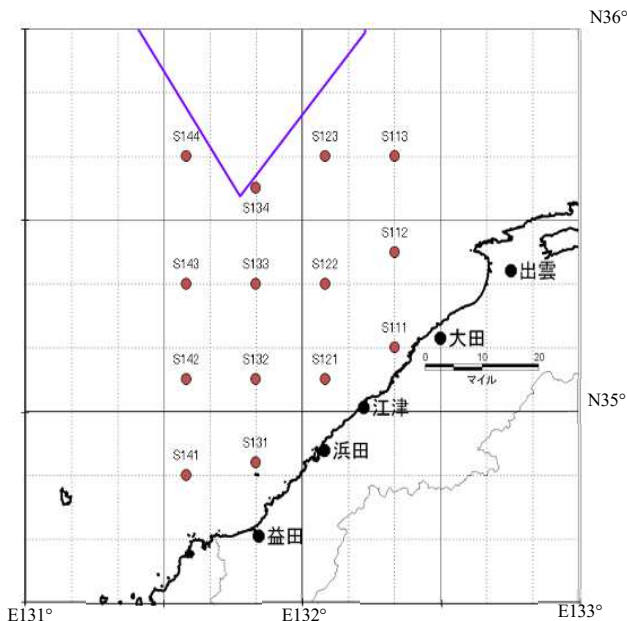


図 1 マアジ新規加入量調査の調査点

4. 成果

本調査結果はトビウオ通信 (令和 6 年第 7 号) で報告した。また、研究結果はマアジ対馬暖流系群の資源評価におけるマアジ 0 歳魚の指標値として使用され、これを基に ABC (生物学的許容漁獲量) が算定され、TAC (漁獲可能量) が設定された。